

第72期 株主通信

2022年4月1日から2023年3月31日まで

人と技術を活かし、
常に社会から
必要とされる集団を
目指す。



トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2022年4月1日から2023年3月31日までの事業の概況等についてご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 大野 達也

当期の事業概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、資源高の影響などを受けつつも、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進む中で、アメリカ・EU・アジア向けの輸出入は横ばいを維持しており、生産についても、海外景気の下振れ等による影響を注視しつつ、原材料価格の高騰や供給面での制約の影響の緩和が見られることから持ち直し傾向にあります。今後先行きも含め、一層の

景気回復の動きに期待が懸かる中、ウィズコロナのもとで、弱含んでいた消費者マインドに持ち直しの動きが見られ、企業収益についても、現状及び先行きに対する業況判断の上昇とともに、総じて緩やかながらも改善傾向にあるものと目されております。

一方、公共投資につきましては、国の令和4年度一般会計予算の補正予算において約2兆円規模の予算措置が講じられ、令和5年度一般会計予算の公共事業関係費でも、当初予算は、前年度並みの予算水準となっ

経営理念

人と技術を活かし、
常に社会から必要とされる
集団を目指す。

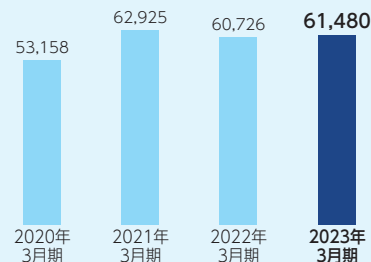
連結決算 ハイライト

2020年3月期から
2023年3月期まで

※2021年3月期以前は、
OSJBホールディングス
株式会社の情報です。

Highlight

売上高 (単位:百万円)



ております。公共工事請負金額が、対前年同期比5.6百億円減の99.6%の実績となりましたが、全体的には、補正予算の効果もあって、引き続き堅調に推移していくことが見込まれております。

このような状況におきまして、当社グループ全体で受注活動に取り組んだ結果、当連結会計年度の受注高は、712億6千7百万円(前年同期比7.4%増)となりました。前連結会計年度比で鋼構造物事業、港湾事業においては減少となりましたが、建設事業において好調でありグループ全体としては増加となりました。

当社グループの当連結会計年度における売上高は614億8千万円(前年同期比1.2%増)となりました。港湾事業において減少となりましたが、建設事業、鋼構造物事業の増加で補い、前年同様600億円台の水準を確保いたしました。また、受注残高につきましては、上記の受注及び売上の状況により、978億2千8百万円(前年同期比11.1%増)となりました。

当連結会計年度における売上原価は506億5千4百万円(前年同期比0.6%増)となり、売上総利益は108

億2千5百万円(前年同期比4.2%増)となりました。売上原価は増加となりましたが利益率の向上に努めた結果、売上総利益は増加となりました。

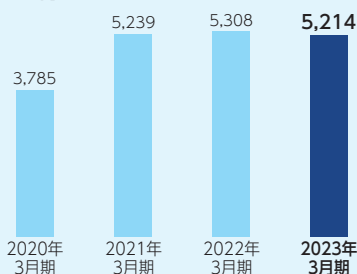
当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、試験研究費、諸経費の増加により56億1千万円(前年同期比10.4%増)となりました。営業利益は52億1千4百万円(前年同期比1.8%減)、経常利益は54億2千7百万円(前年同期比0.6%減)となりました。

当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、39億2千2百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

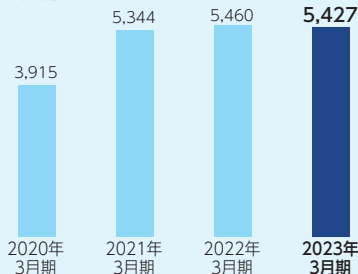
今後の見通し

公共投資市場は、防災・減災対策や将来を見据えたインフラ老朽化対策の推進、整備新幹線の着実な整備やリニア中央新幹線プロジェクトの推進、全国の高速度道路の大規模更新工事及び4車線化といった事業が引き続き展開され、今後の建設需要は底堅い見通しで

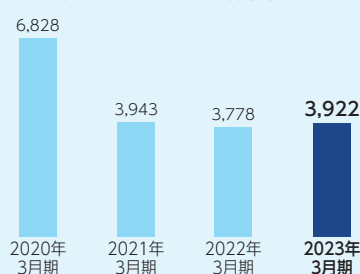
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



セグメント別概況

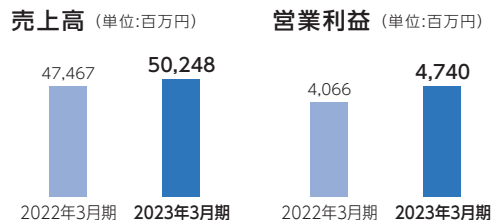
建設事業



売上高 **50,248**百万円

当セグメントにおきましては、売上高は502億4千8百万円(前年同期比5.9%増)、セグメント利益(営業利益)は47億4千万円(前年同期比16.6%増)となりました。前年同期比で主にニューマチックケーソン工事における売上高の増加に伴い、利益についても増加となりました。

営業利益 **4,740**百万円



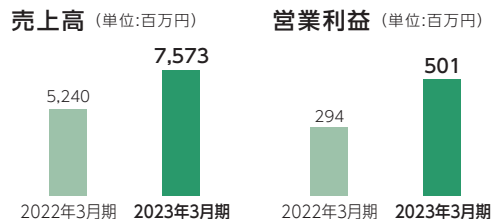
鋼構造物事業



売上高 **7,573**百万円

当セグメントにおきましては、売上高は75億7千3百万円(前年同期比44.5%増)、セグメント利益(営業利益)は5億1百万円(前年同期比70.5%増)となりました。前年同期比で主に新設橋梁工事、補修補強工事における売上高の増加に伴い、利益についても増加となりました。

営業利益 **501**百万円



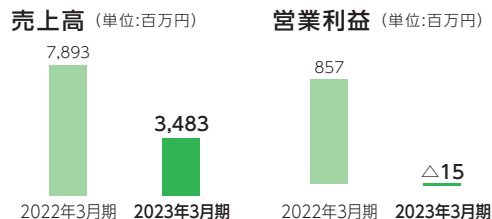
港湾事業



売上高 **3,483**百万円

当セグメントにおきましては、売上高は34億8千3百万円(前年同期比55.9%減)、セグメント損失(営業損失)は1千5百万円(前年同期はセグメント利益(営業利益)8億5千7百万円)となりました。

営業利益 **△15**百万円



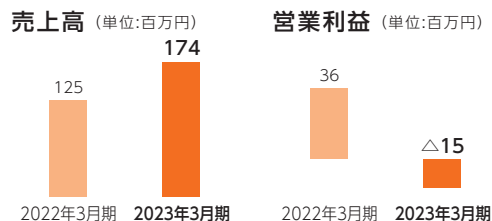
その他



売上高 **174**百万円

太陽光発電による売電事業、不動産賃貸事業及びインターネット関連事業により、売上高は1億7千4百万円(前年同期比39.4%増)、セグメント損失(営業損失)は1千5百万円(前年同期はセグメント利益(営業利益)3千6百万円)となりました。

営業利益 **△15**百万円



当社グループは、2023年度(2024年3月期)を初年度とし、2025年度(2026年3月期)までの3ヵ年を対象とした「中期経営計画～さらなる成長に向けた競争力の向上と新たな挑戦～」を策定し、スタートさせました。ここに新中期経営計画の概要についてご説明いたします。

▶ 前中期経営計画(2020-2022年度)の振り返り

■ 業績・財務指標

	前中計目標 2023年3月期	前中計実績 2023年3月期
売上高	650億円	615億円
受注残高	—	978億円
経常利益	50億円	54億円
経常利益率	7.7%	8.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	33億円	39億円
ROE	8%以上	9.7%
配当性向(配当/株)	40%程度	40.0%(13.5円)
総還元性向	40%以上	40.2%

■ 事業実績

- 大規模更新や新設橋梁などの大型・長期工事の受注により、今後数年にわたる繰り越し受注残高を確保。
- 整備新幹線工事、大規模更新等の補修補強工事、地下貯水設備等のニューマチックケーソン工事により、売上・収益を確保。
- 技術開発や生産性の向上、人財の確保・育成を進め、事業競争力を高めた。

■ 非財務実績

株主対応・開示等

機関投資家との継続的なIR・SRミーティングの実施、コーポレートレポートの内容の充実、決算説明会の年2回実施

ガバナンス体制

監査等委員会設置会社へ移行、指名報酬諮問委員会、サステナビリティ委員会、事業ポートフォリオ会議等を設置、運営を開始

▶ 2030年の将来像

人財と技術の多様性を活かし、社会インフラ整備の様々な需要に応え、挑戦と前進を続ける企業集団



中期経営計画(2023-2025年度)

～さらなる成長に向けた競争力の向上と新たな挑戦～

▶新中期経営計画(2023-2025年度)策定にあたって

経営環境認識と課題

社会的要請と前中期経営計画からの課題

組織強化と生産性向上を図りながら主力となる基幹事業に加え、連結事業（鋼構造物事業、港湾事業）そして新規・周辺事業の強化を図っていく

社会的要請(機会)

- 国土強靱化、防災・減災
- 社会インフラの老朽化
- リダンダンシー▶利便性を考慮した高規格道路の整備
- 地方創生と経済の活性化
- インフラ整備の官民連携
- 技術革新
- 生産性
- サステナブル経営
- 気候変動への対応
- 人財、働き方への多様性
- 資本コスト経営・PBRの改善
- リスクマネジメント、コーポレートガバナンス強化
- 適切な開示

事業戦略の方向性

事業の安定と拡大

- ▶ 基幹事業の充実、連結事業の強化
- ▶ 新規・周辺事業の成長

成長力への戦略投資

- ▶ 生産性の向上
設備投資やDXを通じた業務改革
- ▶ 研究開発、技術革新
特化工法、材料・特許開発
競争力/収益力維持、強化

事業領域の拡大

- ▶ 工場製品、地域戦略、橋梁維持管理、官民連携、海外、環境事業への注力
- ▶ 業務提携による異業種M&A、市場開拓

経営戦略の方向性

人財の獲得・育成

- ▶ 担い手確保、技術伝承

サステナブル経営

- ▶ 脱炭素環境対応、D&I、エンゲージメント向上
- ▶ モニタリング機能強化、リスク管理、ガバナンス強化、コンプライアンスの共有

資本効率経営

- ▶ 積極投資と株主還元強化
- ▶ 有利子負債活用と企業価値向上

株主との対話

- ▶ 非財務情報等の適切開示

基本方針

中期経営計画の 基本方針

1



国土強靱化、インフラ老朽化対策などの社会的課題の解決に貢献し、これを業績の向上につなげる

2



基幹事業のさらなる充実、連結事業の強化、新規・周辺事業の成長と領域拡大を推進し、グループ全体の発展を図る

3



DXや技術開発、他社・他業種との連携により、事業生産性を高める

4



教育、研修など“人への投資”を促進し、競争力豊かな人財の構築を図る

5



バランスのとれた投資、還元戦略を実行する

6



カーボンニュートラルに向け、脱炭素施策の推進と技術開発を継続する

定量目標

企業価値向上と成長戦略

持続的な売上の増加と収益の向上

	2023年3月期実績	2026年3月期目標
売上高	615億円	730億円
営業利益	52億円	62億円
当期純利益	39億円	45億円



成長事業の基盤固め

	前中計累計	新中計累計
投資額	120億円	220億円
	2023年3月期実績	2026年3月期目標
D/Eレシオ	0.10	0.29

株主に対する還元効率

	2023年3月期実績	2026年3月期目標		2023年3月期実績	2026年3月期目標
ROE	9.7%	9%以上		配当性向 40%	50%以上
				総還元性向 40%	70%程度
PBR	2023年3月期実績 0.91	2026年3月期目標 1.00以上			

投資戦略

基幹事業や連結事業（鋼構造物事業、港湾事業）の拡充と強化、新規・周辺事業の拡大を図る。

戦略実行に向けた組織、体制の強化

- 営業企画部の再編
- 経営戦略チームの新設
- 事業企画チームの新設
- 外部コンサルタントの活用
- 外部アライアンスの強化

新中期経営計画

(2023-2025年度)

投資総額

220億円規模

前中期経営計画

(2020-2022年度)

投資総額

120億円

投資実績

- 研究開発
- M&A投資
- 既存施設、保有機材更新

对象

総額

經常投資(既存事業継続投資)	50億円
成長投資(成長機会創出投資)	110億円
戦略投資(資本業務提携)	60億円

開発投資

アライアンス投資
(M&A)

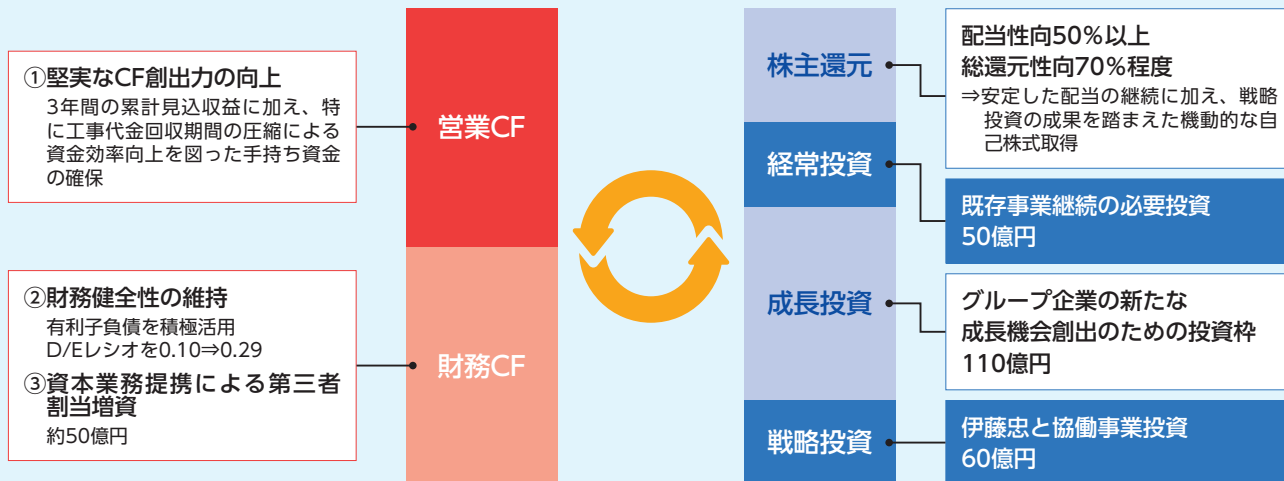


設備投資

人財投資

財務戦略

キャピタル・アロケーション



サステナビリティ戦略

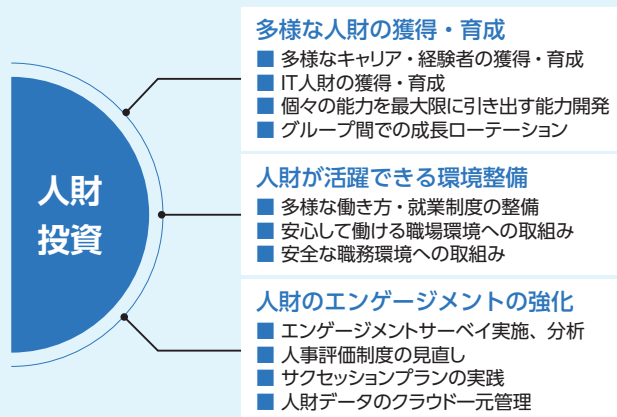
環境（カーボンニュートラルの実現に向けた取組）

2030年度CO₂排出量削減目標とロードマップ(Scope1、2)

(基準年:2021年)	2021年度実績		2030年度目標	
売上高	607億円		900億円	
CO ₂ 排出量(Scope1、2)	18,673t-CO ₂		19,000t-CO ₂	
売上高原単位	31t-CO ₂ /億円		21t-CO ₂ /億円	
削減率			約31%	
数値目標	2023-2025	2026-2028	2029-2030	
削減率	12%	24%	31%	
データ計測充実				
削減対策				

- ① 管理評価の拡充、体制の確立
- ② 具体的な削減手法の試行
- ③ 外部イニシアティブの参画、活用

人財戦略：人財と技術の多様性を活かす働きやすさと働きがいのある魅力的な企業づくり



詳細は、当社ウェブサイトに掲載しております。

ウェブサイトURL : <https://ir.orsc.co.jp/ja/ir/management/plan.html>





独自の工法と特化技術で社会基盤を創造する



ホームページのご案内
<https://www.orsc.co.jp/>



会社概要 (2023年3月31日現在)

商号	オリエンタル白石株式会社
創業日	1952年10月21日
資本金	10億円
従業員数	724名
事業内容	プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売、ニューマチックケーソンの建設工事、補修補強の建設工事、耐震補強建築工事の設計・施工、建設資材の販売、太陽光による発電事業およびその管理・運営ならびに電気の供給、販売
所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代表取締役社長	大野 達也

現場紹介 萬丈橋塩害対策工事

西湘バイパス 酒匂IC～小田原西IC 間に位置する萬丈橋(上下線)は建設から40年以上が経過し飛来塩分に起因する塩害による劣化・損傷が進んでいます。本工事は、電気化学的防食工法のうち脱塩工法による塩害対策ならびに炭素繊維補強、外ケーブル補強、壁高欄改良、西湘大橋(上下線)および渚橋(上下線)の鋼桁補修、塗替塗装等を行う工事です。



萬丈橋

工事名称	西湘バイパス(特定更新等) 萬丈橋塩害対策工事(2021年度)
発注者名	中日本高速道路株式会社
工事場所	神奈川県中部二宮町二宮～神奈川県小田原市風祭
工期	2021年10月28日～2025年7月8日
工事概要	脱塩工 4,578㎡【萬丈橋】 炭素繊維補強工 18,073㎡【萬丈橋】 外ケーブル補強工 37,675kg【萬丈橋】 壁高欄改良工 890m【萬丈橋】 鋼桁補修工 412kg【渚橋】【西湘大橋】 塗替塗装工 480㎡【渚橋】【西湘大橋】 詳細設計 1式



渚橋



西湘大橋

現場紹介 西知多道路荒尾OFFランプ橋下部工事

本工事は、西知多道路 東海ジャンクション接続部の南端に位置し、供用中の西知多産業道路に接続する荒尾OFFランプ橋の下部工2基を、スリムケーソン工法にて築造する工事です。

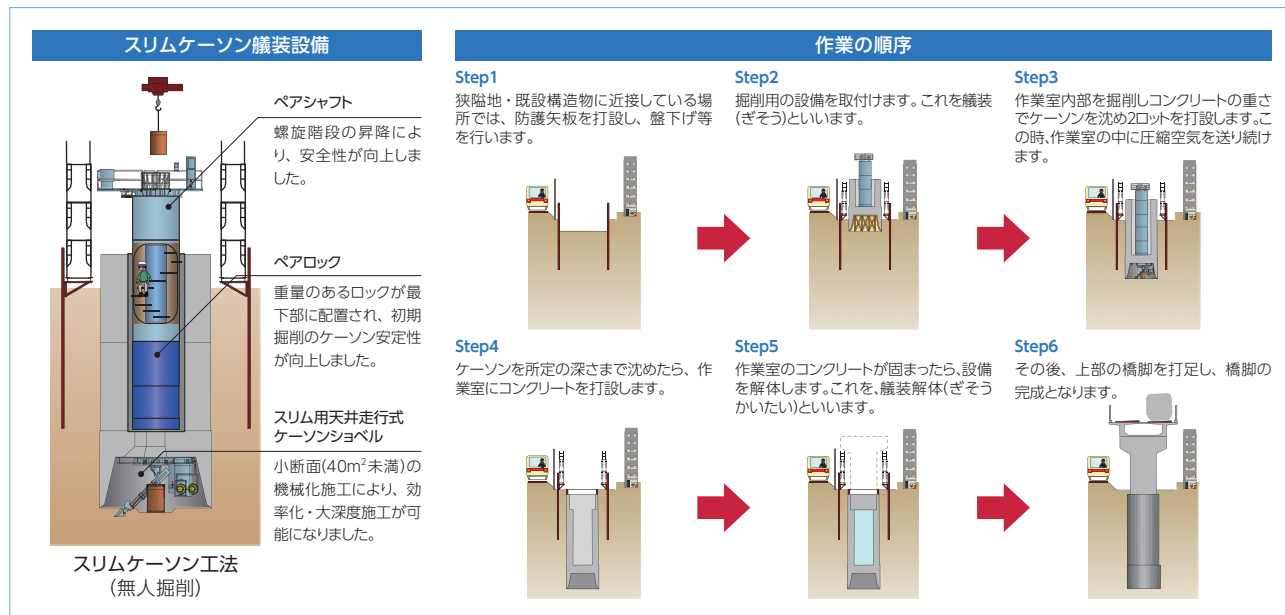
西知多道路は、中部国際空港と伊勢湾岸自動車道を連絡し、名古屋都市圏自動車専用道路網を形成することで、知多地域の交通混雑の緩和、さらに中部国際空港ダブルネットワーク化に寄与する、延長約18.5kmの高規格道路です。

この西知多道路の北区間は、供用中の西知多産業道路に併走する形態で整備が計画され、北端は供用中の東海ジャンクションに接続されます。供用中の高速道路・ランプ橋および西知多産業道路(自動車専用道)に近接した狭隘な施工ヤードでの施工が必要であることから、下部工には小断面に対応したスリムケーソン工法が多く採用されています。

西知多道路関連工事は、多数の工事が分割して発注されていることより、当社は、元請、下請の両方の請負形態で受注しています。これまでに、14基(8工事)が発注され、6基が完了し、現在7基が施工中および施工準備中です。



スリムケーソン施工状況



工事名称 令和3年度 247号西知多道路荒尾OFFランプ橋下部工事
発注者名 国土交通省 中部地方整備局 愛知国道事務所
工事場所 愛知県東海市東海町
工期 2022年2月14日～2023年6月30日
工事概要 荒尾OFFランプ橋 橋梁下部工(RC構造)2基

PL1橋脚: ニューマチックケーソン基礎φ7000(円形)・沈設長 24.000m 最大気圧 0.18MPa RC橋脚工 H=15.5m
 PL1橋脚: ニューマチックケーソン基礎φ7000(円形)・沈設長 22.500m 最大気圧 0.15MPa RC橋脚工 H=12.6m (梁部PC緊張有り)



日本橋梁株式会社

美しく豊かな国土の建設に貢献



会社概要 (2023年3月31日現在)

商号	日本橋梁株式会社
創業日	1919年7月7日
資本金	4,000万円
従業員数	115名
事業内容	橋梁等の鋼構造物の設計・製作・架設・補修補強工事
所在地	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目9番1号
代表者	代表取締役社長 坂下 清信

ホームページのご案内

<https://www.nihon-kyoryo.co.jp/>



採用活動 学生向け現場インターンシップ

日本橋梁では若年層の建設業界への就業意欲を高めるため、積極的に現場見学会やインターンシップを開催しています。

設計担当や施工管理の従業員からの説明を受けながら、普段はなかなか見ることのできない橋梁の施工現場を間近に見ていただき、橋梁業界ひいては土木・建設業界への理解を深める機会を提供しております。



実施現場

西日本高速道路株式会社発注 松山自動車道
長谷川橋耐震補強工事（愛媛県四国中央市）



確かな技術力をもとに、総合サービスでお応えします。



ホームページのご案内
<https://taikoh-giken.co.jp/>



会社概要 (2023年3月31日現在)

商 号	株式会社タイコ-技建
創 業 日	1971年2月1日
資 本 金	2,000万円
従 業 員 数	42名
事 業 内 容	建設機材の設計・製作、建設機械の維持管理、設備工事・技術サポート、 建設工事(ニューマチックケーソン、橋脚耐震補強 等)
所 在 地	茨城県つくば市緑ヶ原一丁目1番地2
代 表 者	代表取締役 松野 明 浩

現 場 紹 介 関戸橋 架替工事

主要地方道府中町田線(第18号)鎌倉街道 関戸橋は、多摩川に架かる上流側と下流側の2つの橋で構成されており、今回施工する下流側は昭和12年に架けられた橋で、約85年が経過し老朽化が進んでいます。

関戸橋の架け替え工事は、老朽化の改善と耐震性の向上により、災害時の復旧活動が円滑に進められることを目的としています。



掘削状況(夜間)



施工状況(昼間)

工 事 名 称	下流橋下部工事(4南東-関戸橋その12)
発 注 者 名	東京都建設局→株式会社フジタ
工 事 場 所	東京都府中市住吉町二丁目地内から多摩市関戸二丁目地内
期	2022年11月14日～2023年5月31日
工 事 概 要	ニューマチックケーソン沈下掘削工2基 P5橋脚: 矩形14.0m×10.5m、掘削長14.821m、掘削面積147㎡、 掘削土量2,179㎡ P6橋脚: 矩形14.0m×10.0m、掘削長14.864m、掘削面積140㎡、 掘削土量2,081㎡



函内ケーソンショベル

グループ会社紹介



山木工業株式会社

港湾・土木・建築工事を営む総合建設会社です。



会社概要 (2023年3月31日現在)

商	号	山木工業株式会社
創	業	1941年4月1日
資	本	6,000万円
従	業	72名
事	業	港湾・土木・建築工事、省エネ建材の販売
所	在	福島県いわき市平谷川瀬3丁目1番地4
代	表	代表取締役社長 小峰良介

ホームページのご案内

<https://www.yamakiind.jp>



現場紹介 湯本スプリングスカントリークラブカート連絡橋架替工事

本工事は、福島県いわき市遠野町の「湯本スプリングスカントリークラブ」のカート橋架替工事です。一般道上部をカート道が立体交差している鋼製カート橋で、老朽化による架け替えが検討されていました。弊社は、ゴルフ場開業時に、クラブハウスの建築工事に携わっており、以来、クラブハウスのメンテナンス工事の発注をいただいております。

この度、橋梁架設を主要事業とするオリエンタル白石(株)の子会社となったこともあり、カート橋の架替工事の施工会社としてご指名いただきました。グループ内各社のアドバイスを受けて、2024年2月の完成を目指し施工中です。



施工写真1



施工写真2

工 事 名 称	湯本スプリングスカントリークラブカート連絡橋架替工事
発 注 者 名	緑化開発株式会社
工 事 場 所	福島県いわき市遠野町
工 事 概 要	鋼製カート連絡橋 上下部工 橋梁上部工 L=70.35m 橋梁下部工 逆T式橋台 2基 壁式橋脚 1基



建設業に様々なカルチャー・テクノロジーを掛け合わせ、 建設業界を再起動(リブランディング)

プロジェクト紹介 「映画×建設」短編映画『ROADING...』制作

本プロジェクトは、“建設業を若者の人気職業へ”をスローガンに掲げる「CREATIVE LAND プロジェクト」の一環として、「映画×建設」で建設業に意識の向いていない多く的一般の方々に建設業に興味を持ってもらうキッカケを作り出すことを目的として、普段の生活の中では触れる機会のない建設工事を題材に、短編映画『ROADING...』を制作しました。

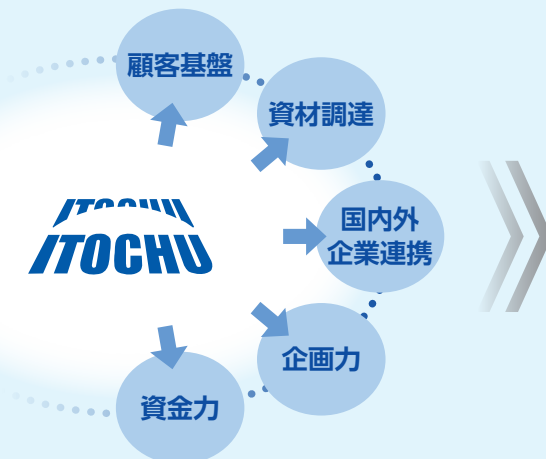
本作は、VR空間と現実世界を通し、孫と祖父という歳の離れた二人の心の交流を描いています。注目の俳優と名優の共演により、年齢差を越えて育まれる孫と祖父の心温まる映画が誕生しました。



TOPICS

資本業務提携による戦略投資

当社は、伊藤忠商事株式会社と資本業務提携を締結し、第三者割当増資による約50億円の資金調達を実施いたしました。



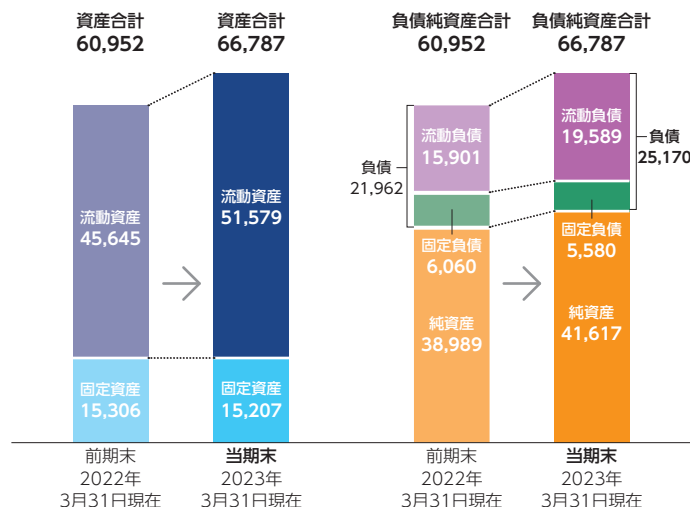
期待される波及効果

- 床板の外販強化
- 工場製品の販出強化
- 特化工法の採用の拡充
- ニューマチックケーソン顧客基盤拡大
- 建築事業の連携相手拡大
- 官民連携事業の協働推進
- 資材調達条件の改善
- 企業買収戦略のノウハウ提供、支援
- 新規事業領域への支援(海外、環境、港湾他)
- 戦略企画の助言・サポート
- 人材育成支援

連結財務諸表

連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



POINT 1 流動資産

流動資産は、前連結会計年度に比べ13.0%増加し515億7千9百万円となりました。これは主に現金及び預金が5億9千万円、受取手形・完成工事未収入金等が47億5千7百万円、未成工事支出金が3億7千1百万円増加したことなどによるものであります。

POINT 2 固定資産

固定資産は、前連結会計年度に比べ0.6%減少し152億7百万円となりました。これは、投資有価証券が2億6千2百万円、繰延税金資産が2億9千3百万円増加しましたが、減価償却費等により有形固定資産が1億6千6百万円、無形固定資産が5億1百万円減少したことなどによるものであります。

POINT 3 流動負債

流動負債は、前連結会計年度に比べ23.2%増加し195億8千9百万円となりました。これは主に預り金等が4億5百万円減少しましたが、支払手形・工事未払金等が10億2千9百万円、未払法人税等が8億4百万円、未払消費税等が14億7千9百万円増加したことなどによるものであります。

POINT 4 固定負債

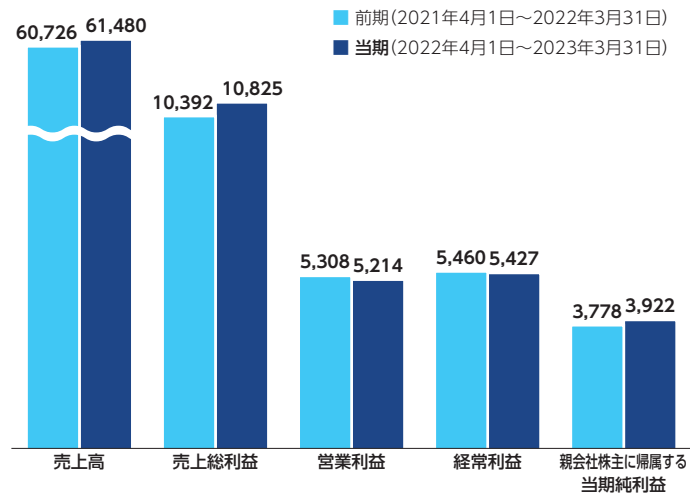
固定負債は、前連結会計年度に比べ7.9%減少し55億8千万円となりました。これは主に退職給付に係る負債が2億6千7百万円増加しましたが、長期借入金等が5億8千8百万円、繰延税金負債が2億1千万円減少したことなどによるものであります。

POINT 5 純資産

純資産は、前連結会計年度に比べ6.7%増加し416億1千7百万円となり、自己資本比率は62.3%となりました。

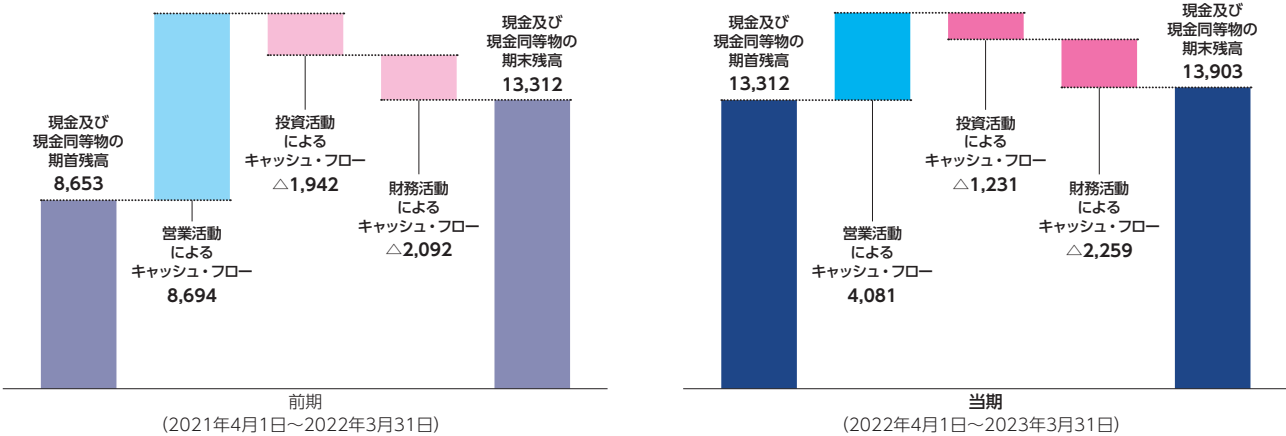
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



POINT 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は40億8千1百万円(前年同期比53.1%減)となりました。これは主に減価償却費14億8千8百万円、売上債権の増加42億3千万円、仕入債務の増加10億2千9百万円、未払消費税等の増加14億7千9百万円、法人税等の支払額12億7千1百万円、税金等調整前当期純利益54億8百万円などによるものであります。

POINT 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は12億3千1百万円(前年同期比36.6%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出9億1千万円、投資有価証券の取得による支出3億4千1百万円などによるものであります。

POINT 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

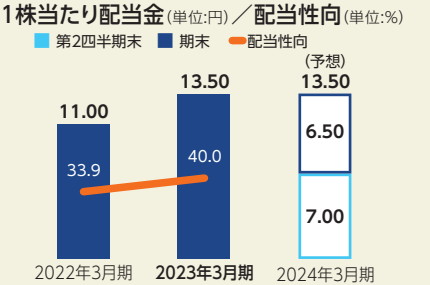
財務活動による資金の減少は22億5千9百万円(前年同期比8.0%増)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出6億5千8百万円、配当金の支払額12億8千6百万円などによるものであります。

当期・次期の配当および配当方針の変更

当期業績等を総合的に勘案した結果、当期の配当金につきましては、普通株式1株当たり13.5円とさせていただきます。

当社は、配当の実施については、期末配当の年1回を基本的な方針としておりましたが、株主の皆様への利益還元を充実させるため、2024年3月期より中間配当を実施することといたしました。

次期につきましても、基本方針に従い年間普通配当金については当期と同額の13.5円を予定し、可能な限り株主の皆様への利益還元に努めてまいります。



株主アンケート結果

2022年12月から2023年2月に実施した「株主アンケート」におきましては、数多くの株主様よりご回答を頂戴いたしました。ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

なお、頂戴いたしました株主様からの貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の経営やIR活動等の参考にさせていただきたいと存じます。

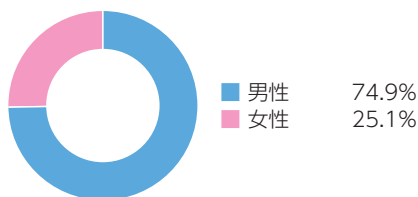
以下に、今回の「株主アンケート」の結果についてご報告させていただきます。



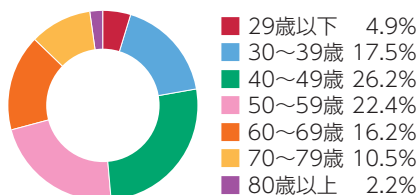
「株主アンケート」概要

アンケート方法	WEBでのアンケートを実施（「中間株主通信」に概要を掲載）
アンケート対象者	2022年9月30日時点 株主名簿記載の株主様
アンケート対象人数	22,433名
アンケートご回答数	1,699名
アンケートご回答率	7.6%

ご回答いただきました株主様の性別



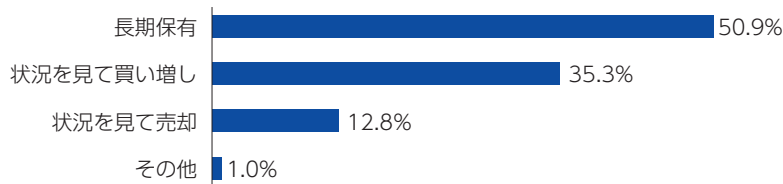
ご回答いただきました株主様の年代



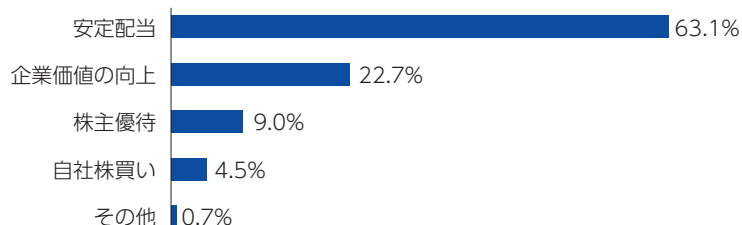
Q 当社株式を購入された際、重視されたポイントをお選びください。 (複数回答)(上位5位)



Q 今後の当社株式に関して、あなたのお考えに近いものをお選びください。



Q 今後、株主還元として、当社に最も期待することは何ですか？



企業情報

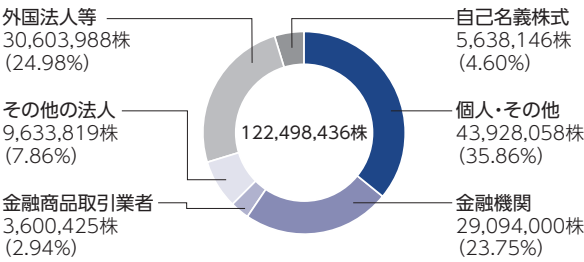
会社概要 (2023年3月31日現在)

商 号	オリエンタル白石株式会社
	 オリエンタル白石株式会社
創 業	1952年10月21日
資 本 金	10億円
従 業 員 数	(連結)953名 (単体)724名
事 業 内 容	・プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売 ・ニューマチックケーソンの建設工事 ・補修補強の建設工事 ・耐震補強建築工事の設計・施工 ・建設資材の販売 ・太陽光による発電事業及びその管理・運営ならびに電気の供給、販売
所 在 地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
U R L	https://www.orsc.co.jp/
上場証券取引所	東証 プライム市場
主要取引銀行	株式会社三菱UFJ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社みずほ銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社りそな銀行

株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数	138,809,400 株
発行済株式の総数	122,498,436 株
株 主 数	22,516 名

所有者別状況



取締役 (2023年6月23日現在)

代表取締役社長	大 野 達 也
取 締 役	正 司 明 夫
取 締 役	橋 本 幸 彦
取 締 役	水 野 敏 昭
社 外 取 締 役	加 藤 英 明
社 外 取 締 役	酢 谷 裕 子
社 外 取 締 役	森 永 博 之
社 外 取 締 役	磯 和 春 美
取締役(監査等委員)	竹 田 雅 明
社外取締役(監査等委員)	小 島 公 彦
社外取締役(監査等委員)	千 葉 直 人

大株主 (2023年3月31日現在)

株 主 名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,096千株	12.91%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	11,191千株	9.57%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	9,378千株	8.02%
村上 貴輝	4,056千株	3.47%
山内 正義	2,541千株	2.17%
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SEGR ACCT	2,002千株	1.71%
株式会社M I 2	1,651千株	1.41%
オリエンタル白石社員持株会	1,554千株	1.32%
BNYMSANV AS AGENT / CLIENTS LUX UCITS NONTREATY 1	1,420千株	1.21%
JP MORGAN CHASE BANK385781	1,204千株	1.03%

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数を分母に用いて算出しております。

WEBサイトのご案内

QRコード➡



最新のIR情報など、様々な情報を提供しておりますので、
ぜひご覧ください。

オリエンタル白石

検索

<https://www.orsc.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 その他必要があるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日 期末配当金 3月31日
公告方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 (同連絡先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 ☎ 0120-232-711

表紙写真について

名称：佐世保道路 竹辺1号橋他2橋(PC上部)工事
工事概要：西九州自動車道(相浦中里IC～佐世保中央IC間)の
4車線化工事
箱桁橋、コンボ桁橋、プレテン桁橋、RC多主版橋
と構造形式が違う3橋を同時に施工
工期：2022年4月6日～2024年10月21日
施工会社：オリエンタル白石株式会社



単元未満株式の買取制度について

当社では証券市場で株式を売買できる取引単位(単元株式)を100株とさせていただいており、単元未満株式(1～99株の株式)については、証券市場においては売買することができません。

そのため、ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度(単元未満株式の買取請求)がござります。

単元未満株式の買取請求に関するお手続きの詳細については、お取引先の証券会社等(口座管理機関)にお問い合わせのうえ、お手続きください。また、特別口座に記録されている単元未満株式の買取請求をされる場合は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせのうえ、お手続きください。

単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。

具体例

50株

50株をお持ちの
株主様

50株

買取制度をご利用 ↓ 当社に50株売却

現金化

¥

¥

¥

¥

¥

¥



〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号(NBF 豊洲チャンネルフロント)
TEL.03-6220-0630 FAX.03-6220-0641 URL.<https://www.orsc.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。